

いわき農林水産ニュース

(ごちそう ふくしま絆づくり運動ニュース)

4月号 発行 平成25年 4月 26日



〈東日本大震災関連〉



いわき地方の農林畜産物 モニタリング調査結果

福島県が行ったいわき地方の3月の農林畜産物の放射性セシウムのモニタリング調査結果をお知らせします。

調査した5品目33検体のうち、4品目32検体は、検査機器の検出限界値以下でした。基準値内で検出のあった1品目はふきのとう(野生)で、基準値を超えたものはありませんでした。品目としては、菌床しいたけ(施設)、菌床なめこ(施設)、牛肉、原乳の検体すべてにおいて検出が認められませんでした(表1、2)。4月22日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されているのは、ユズ、くり、たけのこ、ぜんまい、たらめ(野生のものに限る。)、わらび、こしあぶら、野生きのこ、原木なめこ(露地栽培)となっています。

また、平成24年産の米は、全袋検査を実施しており、3月末までの検査点数518, 213点のうち99.7%の516, 680点が測定機器の測定下限値未満、1,532点が基準値内で検出が確認されました。もち米1点が基準値を超過しましたが、管理され市場には出回っておりません。調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま新発売。」の農林水産物モニタリング情報で、24年産米については「ふくしまの恵み安全対策協議会」で簡単に検索できますので、結果をご確認ください。

(表1) 農林畜産物の調査結果 (3月)

放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数	放射性セシウムが検出された品目と検体数		計
	基準値内で検出された品目と検体数	基準値を超過した品目と検体数	
4品目 32検体	1品目 1検体	0品目 0検体	5品目 33検体

(表2) 1点も放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数

牛肉 24	原乳 4	菌床しいたけ(施設) 2
菌床なめこ(施設) 2		

〈一般情報〉



農産物風評被害対策事業を 実施しました

この事業は、いわき地方における学校の給食や調理実習において、県が放射性セシウムの測定結果及び産地情報を添付した安全・安心の見えるいわき産の農産物を食材として供給することで、いわき産の農産物についての理解を深めるとともに、風評被害の払拭及び消費拡大による地産地消を推進することを目的として、いわき農林事務所が独自で実施している事業です。

3月5日(火)に県立いわき海星高等学校で、3月15日(金)に県立好間高等学校で実施されました。

県立いわき海星高等学校では、食品システム科の2年生の生徒が福島のイチゴ「ふくはる香」を使ったイチゴジャムをつくりました。食品システム科では、サバ、サンマ、カツオ等の水産加工品だけでなく、農産加工品の実験実習にも取り組んでいます。生徒の皆さんは、「今回のような農産物を使用した実習をもっと実施してほしい。」「地元産の農産物を使用した加工品を製造、販売して、放射線による風評被害の払拭に協力していきたい。」と熱意ある感想を述べていました。県立いわき海星高等学校では、今後もいわき産の農産物を使った実習を実施していく予定です。

県立好間高等学校では、選択授業「発育と保健」を履修した2年生の生徒が「野菜を子どもに食べさせたい」という単元の授業でトマトと長ネギを使ったペタンコ水餃子をつくりました。

両校の生徒とも地元産の農産物をおいしく味わうことができましたようです。



(いわき海星高校・イチゴジャム)



(好間高校・ペタンコ水餃子)



キッチンカーで福島復興カレーの販売をしました

1月5日(土)から3月17日(日)にかけて、福島のグルメを販売するキッチンカーの移動販売が首都圏において行われました。これは、県内地場産業の振興及び県産品の販売機会の拡大を図るとともに、マーケティング調査を行う事業として実施されたものです。

その最終日、3月17日(日)には、東京有楽町駅前で株式会社いわき福島復興オフィスによる福島復興トマトカレーの販売が行われました。

福島復興トマトカレーは、ご飯に天のつぶを、カレーにいわき産のトマトやパプリカ、しいたけを使用しています。キッチンカーの前は福島復興カレーをおいしそうに味わう多くのお客で賑わいました。



(トマトカレーを販売するキッチンカー)



(長蛇の列ができました)



クロマツ林再生へ 新舞子海岸植樹祭を開催しました

3月23日(土)、東日本大震災の津波により甚大な被害を受けた海岸林の再生に向けた第一歩として、新舞子海岸で植樹祭を開催しました。

当日は、県内外からボランティアなど約130人が参加し、開会式で主催者である県の畠農林水産部長が「皆様の御協力をいただきながら、以前のような防災機能の高い、美しいクロマツ林に再生したい。」とあいさつし、いわき農林事務所担当者による海岸林復旧計画の概要説明、鈴木いわき副市長、安室磐城森林管理署長、山本山口県全国植樹祭推進室次長の祝辞の後、現地へ移動し、クロマツの植樹を行いました。参加者は、農林事務所担当者から植栽方法の説明を受けた後、一本一本丁寧にクロマツ苗木を植栽していました。

苗木は、昨年5月に第63回全国植樹祭を開催した山口県から被災地支援の一環として寄贈された抵抗性クロマツ1,000本と森林総合研究所林木育種センター(茨城県)がいわき・相双地方のクロマツの種から育てたクロマツ300本を使用しました。

新舞子海岸のマツ林は、潮害防備や防風保安林等に指定されており、震災の津波の際は、瓦礫等を捕捉するなどの減災効果が確認されています。現在、海岸林を再生するため、防災林造成事業により枯損木の伐採とクロマツの植栽等が実施されており、平成25年度中にクロマツ65,000本が植栽される予定です。



(クロマツ林の植樹状況)



(植樹記念写真)



浜街道・食と物産の大交流祭 が開催されました

3月23日（土）、「浜街道・食と物産の大交流祭～つなげよう、浜の絆～」が県いわき地方振興局及び県相双地方振興局の主催により、いわき市小名浜のアクアマリンパークで開催されました。

今話題となっているご当地B級、Sea級グルメを主としたイベントを実施することで集客力の向上を図り、交流人口を拡大させるとともに、いわき・相双地区の地域交流と食の安全・安心を情報発信し、風評の払拭へ繋げていくことが目的です。

会場には飲食・物販ブースとステージが設けられ、飲食・物販ブースには、いわき復興カレーやなみえ焼きそば、ならはマミーすいとんなどいわき地域や相双地区のご当地グルメや地域の特産物など、同時開催のいわき市物産展と合わせて約30ブースが軒を連ねました。大勢の来場者がそれぞれのブースで目当ての商品を購入し、会場内の飲食スペースでおいしそうに食べている様子が見られました。

また、相馬双葉漁業協同組合が試験操業で捕獲し、放射性物質の検査が済んだミズダコの塩ゆでとズワイガニのかに汁が無料で振る舞われ、水産物の安全性を積極的にPRしていました。

ステージでは、高校生等によるフラダンスショーやご当地ヒーロー共演ショー、福島県の“キビタン”を初めとするゆるキャラによるご当地マスコット共演など多彩な催しが行われ、大勢の来場者を楽しませていました。

会場には1日で約3,000人の来場があり、大盛況のうちに終わりました。



（左：相双地区のご当地ヒーロー、ディネード
右：いわき市のご当地ヒーロー、ジャンガラ）



（お笑いライブを見る来場者）



安全・安心見える化対策で タッチパネル式液晶ディスプレイを導入しました

原発事故による出荷制限や風評被害対策として、本県では、消費者が安心して地元の新鮮な農産物を購入できるよう、緊急時モニタリングや自主検査を通じて放射性セシウム検査結果の開示に取り組んでいます。

昨年度は「ふくしまの恵み安全・安心推進事業（安全・安心見える化対策）」を活用し、農産物を扱ういわき市内の「食処くさの根」、「スカイストア」、「大和田自然農園」の計3か所に放射性セシウムの検査結果が瞬時に確認できるタッチパネル式の液晶ディスプレイを設置しました。

消費者の皆様がこのディスプレイをご覧いただくことで、検査結果を手軽に、わかりやすく知ることができます。ぜひご利用ください。



（タッチパネル式液晶ディスプレイ）



災害復興に係る派遣職員合同着任式を実施しました

4月4日（木）、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故による被災地支援のため、全国40都道府県と3市から本県に派遣された215名の合同着任式が福島市で行われました。

3年目の復興に向け、佐藤雄平知事から「復興に向けて大きな力となります。避難者支援と本県復興に全力を尽くして頂きたい。」とあいさつがあり、派遣職員代表から「福島復興に携われることを誇りに思います。気を引き締めて復興に取り組みます。」と決意が述べられました。

いわき農林事務所森林林業部には、群馬県から牧田和広主任主査が1年間派遣されることになりました。牧田さんは、主に被災した治山施設や崩壊した山腹の復旧工事を担当し、地域の復興・復旧に向けて職員とともに取り組んでいきます。



(牧田さんの現場監督の様子)



森林保全巡視員委嘱状交付式を実施しました

4月4日(木)、森林保全巡視員委嘱状交付式が県いわき合同庁舎で行われ、佐藤清丸いわき農林事務所長より新任1名を含む9名の方に委嘱状が交付されました。

当日は、平成13年度から長年にわたり森林保全巡視員として精力的に活動し、いわき市の森林保全に貢献されてきた内山清光氏に対し、その功績を称え県知事からの感謝状が授与されました。

森林保全巡視員は、主に保安林や県営林を対象に巡視を行い、入山者などに対する山火事防止やゴミの持ち帰りの指導を始め、森林の災害や病虫害の発見、無許可の伐採や誤倒伐等の防止など、良好な森林環境の維持を図るため、年間を通じていわき市各地域のパトロール活動を行います。



(感謝状を授与される内山氏)



平成25年度いわき地方防霜対策本部が設置されました

4月5日(金)、いわき合同庁舎内にいわき地方防霜対策本部を設置しました。

いわき地方防霜対策本部では、4月5日から5月31日までの57日間、遅霜の影響による農業被害を未然に防止するため、市やJA、NOSA Iなど関係機関・団体との密接な連携により、迅速な情報伝達と適切な対策技術の提供に努めます。

この冬は、強い寒気の南下が続いたことにより昨年12月から今年2月まで連続して月平均気温が低く、昨年に引き続き作物には厳しい冬でありました。一方、3月以降は高温傾向となり、桜の開花が前進したように作物の生育も平年より進んでいます。

4月に入ってから、移動性の高気圧と発達した低気圧が交互に日本上空に入り込み、不安定な気象経過となっています。

農家の皆様には、水稻では育苗期の保温と移植後の深水管理、野菜・花きではマルチやべたがけ資材の活用により育苗期間や定植直後の作物の保温に努めていただき、果樹では地温上昇のため下草の管理や適度なかん水をお願いします。

なお、べたがけ資材は、できるだけ新品のもので屋内に保管したものを使用するよう心がけ、放射性セシウムによる二次汚染を防止していただくよう、重ねてお願いします。



(いわき地方防霜対策本部の看板を設置する様子)

食彩ふくしま地産地消推進店のメニューの紹介

地産地消推進日（5月は8日(水)）に合わせ、いわき農林事務所に情報提供のあった食彩ふくしま地産地消推進店のメニューを紹介いたしますので、ぜひご賞味ください。
なお、内容は変更される場合がありますのでご了承ください。

1 フレンチレストラン ラ・フォンローズ（平字新田前）

地産地消メニュー：コース全般（前菜からデザートまで）

説明：添え物に、県産の野菜（会津産アスパラガス、県産トマト等）を使用

実施日：毎日（不定休）

2 いわき食彩館株式会社 スカイストア（平字一丁目）

メニュー：①日替わりランチ ②日替わり弁当

説明：いわき産のこだわりの食材を生かした料理（いわき産の米、野菜等を含む）

※お米がいわき産になりました!!

実施日：①月～金曜 ②毎日

いわき農林事務所からのお知らせ

○ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますので
どうぞご利用ください。

<http://www.new-fukushima.jp/index.html>

1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧

2 イベント情報

3 農林水産物モニタリング情報

(1) モニタリング情報検索

(2) 出荷制限等一覧表

「東日本大震災」
及び「原発事故」からの
復興のために！



◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
（県いわき合同庁舎 3階）
T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196



いわき農林水産ニュース

検索